

表9. 研究公務員の採用状況

年 度	採用者数	うち婦人	婦人比率	うち上級職採用者数		
				採用者数	うち婦人	婦人比率
1965	471	84	17.8%	246	33	13.4%
1966	381	40	10.5	201	13	6.5
1967	416	44	10.6	200	7	3.5
1968	378	47	12.4	211	12	5.7
1969	399	50	10.0	210	7	3.3
1970	376	35	9.3	217	14	6.5
1971	402	35	8.7	226	7	3.1
1972	347	34	9.8	216	6	2.8
1973	330	31	9.4	178	—	—
1974	430	30	7.0	282	9	3.2

一般職の国家公務員の任用状況調査報告（人事院任用局）

研究職公務員採用者中に占める婦人の数はやはり10年間に実数、比率ともに減少が著しい。

とくに上級職合格者の採用減は1966年以降顕著であるが、これは研究職に限らず一般的傾向である。このことについて人事院任用局は次のように述べている。

「この試験の女子の応募者は甲種802名、乙種160名、合格者は甲種52名、乙種7名となっており、前年度と数値の上での差異はみられない。しかし、甲種合格者のうち特定の区分の合格者が多く、……採用者も甲種28名、乙種3名と前年度に引き続き減少の傾向を示した。このように女子の採用が減少したのは、欠員不補充措置により離職率の高い女子が敬遠されたこと、上級の女子の採用による格別の利益が認められないこと等、種々の問題がその原因になっていると考えられる。」

（人事院月報、209号1968年）